

主日礼拝式順

【神の招き】

前 奏
招 詞
賛 美
罪の告白
赦しの言葉
頌 栄

出エジプト記 13:21

7 「主のみいつとみさかえとを」
 (「礼拝の手引き」をごらんください)

5 4 5 「父の御神に」

【神の言葉】

祈 禱
聖書朗読

旧 約 出エジプト記 15: 1- 5 (旧 P. 117)
 使徒書 ペトロの手紙 1 1: 3- 9 (新 P. 428)
 福音書 ヨハネによる福音書 20:19-23 (新 P. 210)

「週の初めの日の出来事」 清弘剛生牧師

説 教
沈 黙
賛 美

1 4 7 「よろこびたたえよ」

【感謝の応答】

使徒信条
祈 禱
献 金
主の祈り

(「礼拝の手引き」をごらんください)

(「礼拝の手引き」をごらんください)

【派遣】

報 告
頌 栄
祝 福
後 奏

5 4 1 「父、み子、みたまの」

——牧師室より——

「復活節を生きる」

キリストが天に挙げられた後、弟子たちはなおエルサレムに留まっていた。エルサレムは彼らにとって、決して居心地の良い場所ではありませんでした。そこにはイエスに敵対していた人々が大勢いたのですから。イエスを憎んだ人々は弟子たちをも憎んでいるでしょう。そこは極めて危険な場所でした。にもかかわらず、彼らはエルサレムに留まっていました。主がこう言われたからです。「エルサレムから離れず、前にわたしから聞いた、父の約束されたものを待ちなさい」(使徒 1: 4)。

留まって待ち望む期間、彼らはどのように過ごしたのでしょうか。「彼らは皆、婦人たちやイエスの母マリア、またイエスの兄弟たちと心を合わせて熱心に祈っていた」と書かれています。そうです、彼らは「心を合わせて」祈っていた。それが聖霊を待ち望む彼らの姿でした。人にしか目が向かなければ、お互いに欠けたところ、異なるところが目につきます。人にしか目が向かなければ一つになることは難しい。しかし、居心地の悪いエルサレムに留め置かれたその時はまた、共に天を仰いで、共に待ち望む時ともなりました。そして、共に天を仰いで待ち望む時、そこに一致が生まれます。彼らは「心を合わせて」熱心に祈っていたのです。

聖霊降臨祭(ペンテコステ)までの期間は「復活節」と呼ばれています。私たちは今、目に見える形で集まることはできません。しかし、それでもなお、彼らと同じように、私たちもまた共に天を仰ぐことによって、心を合わせて祈る共同体として復活節を生きることにはできるはずです。復活節第2週に入ります。(清弘剛生)

彼らは皆、婦人たちやイエスの母マリア、またイエスの兄弟たちと心を合わせて熱心に祈っていた。
使徒言行録 1: 14

——次週主日礼拝—— 4月26日 復活節第三主日

説 教 「さあ、来て、食事をしなさい」 清弘剛生牧師
 聖 書 旧約聖書 イザヤ書 61: 1- 3
 新約聖書 ペトロの手紙 1 1:13-25
 ヨハネによる福音書 21:1-14
 讃美歌 9, 5 4 5, 2 0 5, 5 4 2

今週の祈りの課題

- ①不安を抱えておられるご高齢の方々、病気療養中の方々のために。そ
 のご家族のために。
- ②外出自粛の中で困難や危機に直面している人々や子どもたちのため
 に。